

足立の教育

足立学園中学校・高等学校 広報誌

No.54

おかえり！ 体育祭&学園祭

With コロナの学校 —変わったもの、戻ったもの

個人探究論文概要

大学入試合格状況と進学指導

中1・高1学年主任より OBの活躍

帰ってきた&パワーアップした

グローバルプログラム

足立のICT 部活動戦績



「未来に挑戦する学び」 理事長 初鹿野 恵太郎

日本では令和2年3月に、大型客船から新型コロナウイルス感染症が広まり、早3年弱経過をした。今では懸念されていた第8波に突入してしまっただけでなく、累計では発症者2335万人、死者4万8千人と増加傾向にあると言う。又、今年はインフルエンザの大流行も懸念されており、万が一、ダブルで流行すれば、医療現場は又々、非常事態になる事が予想される。コロナ患者が入院すれば、救急患者の対応も出来ず、一般の患者や手術予定者の対応もできなくなる。医療現場は感染が拡大するたびに大混乱をしているが、一番の犠牲者は一般の患者だと思ふ。実は私もこの夏に不覚にもコロナに感染してしまっただけでなく、予防接種も全て行い、マスク、手洗い、消毒、三密等々、最大限に注意をしていたが原因は不明。40度近い高熱が出たので、当日、医療機関に数件連絡をするも、発熱外来はお断りとのことであった。仕方なく自宅にあった市販の薬で対応し、幸い平熱に戻すことができた。その後の保健所や病院対応等の体験から医者に診て頂きたい時に断られる程不安な事はない、多くの患者が同じく感じたと思ふ。

このような事は“生徒第一主義”の当学園では大丈夫であつたらうか。全てコロナの感染予防の為に、仕方ないとはいえ、生徒には多くの面で何かと制約をした点で、大変申し訳なく思っている。オンライン授業も自宅で受けられるように行い、順調に出来ていると思ふが、本来の対面授業や、生徒同士の交流や切磋琢磨が最も重要だと考えている。修学旅行、体育祭、文化祭、生徒会、部活動等は生徒にとって一番の楽しみで、これらの活動を通して、コミュニケーショ

ン能力や人間力を養う事が出来るものと思っている。今後も「予測が出来ない時代」・「先行き不透明な時代」が続くことと思ひますが、この総合的なピンチの時こそ、生徒には、一歩一歩、力強く乗り越えてもらいたい。

コロナ以外にも沢山の暗いニュースがあつた。昨年に日本で実施されたオリンピック、パラリンピックにおいて数多くの不正が発覚した。元総理大臣の暗殺事件、宗教問題、自然災害リスク等々。様々な問題が山積する世の中においてこそ、当学園の教育目標にある「自ら学び 心ゆたかにたくましく」の精神を貫き、今後もさまざまな知識を結び合わせ、自分で調べ、考え、自分で判断する能力を多様性の中で備えて頂きたい。当校の教師陣は若く優秀な先生が揃つており、これらのことを総合的に個々の生徒に指導して頂いているが、多様性を高め、尚一層の努力をお願いしたい。

末筆ながら、今後生活環境はスピードを上げて変わっていくことと予想されるが、どんな時代になつても、足立学園の生徒には強く生き抜く力をつけ、その為にも“人間力”は無論のこと、語学力や情報技術力、運動能力等、特殊能力を発揮して、“志”を持って厳しい社会を堂々と乗り越えて頂きたい。幸い当学園は英国やオーストラリア、ラオス、アフリカ等の海外研修制度や、マイクロソフトとの契約により、一早く「IT」技術も取り入れており、今後もより深く勉強して、社会に出てそれぞれの分野で“要”となつて活躍して頂くことが、私の願ひである。



未来により良く生きるために 校長 井上 実

今から約250年前にイギリスで起こつた産業革命により、私達人類は蒸気機関を手に入れ、より便利で快適な文明を築き上げてきました。しかし、エネルギー確保のために人間同士が激しく争い、さらに快適な生活を求めて科学技術を進歩させることで、地球規模の公害をまき散らし環境破壊の道を突き進んでいます。自然界は「必要以上に求めない」という節度で成り立っています。しかし、人間は高度な知能をもつことで、この節度を逸脱して自然界の調和を一方的に変えてしまっているのではないのでしょうか。食料廃棄の問題、二酸化炭素問題、紛争等、簡単には解決できない問題が山積しています。

老子がとなえた「足るを知る者は富めり」という言葉がありますが、知足にこそ人間の安定があるという生き方、考え方を、私たちは実践していく必要があるのではないのでしょうか。つまり、私欲は程ほどにして、少し不足くらいの所で満足し、残りは他と共有するやさしさ、思いやりを持つことです。絵空事と思われるかもしれませんが、私はそのような考え方が必ず日本、地球を救うと信じています。

そのような未来において「より良く生きる」ためにはどうしたら良いのでしょうか。教育は「未来においてより良く生きるための準備」であるはずで、そのために大学進学があり、就職があるのです。言い換えれば「未来社会にとってより良い人間となる」ということです。日本が抱える大きな問題として、人口減少が挙げられます。高度経済成長期においては、製品を作れば売れ、また新しい製品を作り、さらに購買意欲をかりたて、使えるものでも買い替えるという「知足」に反する中で成長していきました。今、その反動で人口減少により購買意欲も減少し、製品は安くしても

売れず賃金の低下により、労働意欲も損なわれ経済の停滞が起きています。未来においては既定路線での思考を超えた発想力、創造力が求められています。そのような未来において、世のため人のために、「より良く生きる準備」を着々と進めていかなければなりません。

「知足」の生き方は、決して現状に満足して、新しい試みせず、停滞感や虚脱感に満ちた生き方のことではありません。経済の在り方に例えれば、GDPの総額を向上させつつ、その中身、つまり産業構造自体を次々と変えていく。常に新しい産業が生まれていくようなダイナミックさをもった在り方です。すなわち、人間の叡智により新しいものが次々に生まれ、健全な新陳代謝が間断なく行われるような、活力と創造性に満ちた生き方です。そのような「生き方」に多くの人々が目覚めたとき、利他の心に満ちた新しい文明が花開くのではないのでしょうか。その結果、私たちは成長から成熟へ、競争から共生へという調和の道へと進んでいくのだと思ひます。

稲盛和夫氏の「思いは必ず実現する。しかし、その思いは誰よりも強く、信念というものでなければならない。強く思うことで、人間はその行動を変えていく。従つて思いは必ず実現する。」という言葉があります。自分の為すべきことを探し、それを突き進めれば、必ず実現できるということです。

本校の建学の精神「有為敢闘」とは、まさにそのような人財の育成を示しています。私たちは、時代を担う財産となる生徒達が「より良く生きる」ための準備を、着々と積み重ねられるように、最善をつくしていかなければならないと強く思つております。



With コロナの足立学園

—変化したもの・戻ったもの

やっと足立学園に、生徒の笑顔が少しずつ帰ってきた。そう感じるのは、3年ぶりの体育祭、3年ぶりに2日間開催となった学園祭を無事終えたからだろうか。宿泊行事も徐々に従来の形に近い形で行うことができた。しかし、今まで行けていた場所が行けなくなったり、出発前のPCR検査の結果や宿泊中に体調不良となれば否応なしに参加を取りやめざるを得ないなど、やはり3年前と比べると厳しい制約が続いているのも事実だ。それでも、この3年間なかなか実現しなかった行事の再開は、生徒も教職員も心なしか明るい気持ちを思い出させてくれるものだったのではないだろうか。

国が全国の新規感染者の報告を止めると発表した直後、足立学園では新型コロナウイルス新規感染者が一時的に増加した。後遺症に悩む人、療養中苦しい思いをした人、家族と離れて一人でホテル療養をした人もいる。まだまだ続くWithコロナの足立学園での学校生活をまとめた。

コロナ禍の学校生活で変わったこと



Formsでの健康チェック

新型コロナウイルス感染拡大対策の為、多くの学校で毎朝の健康チェックが行われるようになりました。足立学園ではMicrosoft Formsを使って、毎朝の検温と体調報告をしてもらっています。これにより、クラス内で発熱者がいないか、濃厚接触者にあたる者が登校していないかなどを確認。いた場合は養護教諭から指導を行っています。

不織布マスクの着用と手指消毒

マスクの着用については、世の中でも賛否両論ありますが、足立学園では校内に立ち入る人すべてに不織布マスクの着用をお願いしています。換気やCO2濃度のチェックなども行っていますが、やはり教室内に生徒が集まることを考えるとマスクの着用は必要なものと考えます。入り口や教室前のアルコールでの手指消毒も自然に行う生徒が多く、協力に感謝しています。



ハイブリッド授業

オンライン授業からハイブリッド授業を経たことで、ワクチン接種後の副反応や、濃厚接触者で自分は元気なのに学校に行けないといった時にも希望すればオンラインで授業を受けられるようになりました。新型コロナによる理由でなくとも、骨折での入院などでも利用が可能になり、「休んでしまう」＝「授業から遅れてしまう」問題を少しでも解消できるようになったと思います。

食堂での食事禁止とお弁当販売

コロナ禍で一番問題になったのが食事による飛沫感染。そのため食事場所を限定し、黙食を行う為にも食堂での定食などは一時販売中止となっていました。食堂からお弁当の販売が始まったことで利用する生徒が急増。温かく、ボリュームもあり、食後の食器回収も行っています。コンビニチキンより大きなフライドチキンなども販売しています。



黙食指導

以前は教室・食堂・中庭など好きところで昼食をとっていましたが、感染拡大対策のため教室での黙食がルールとなりました。室内で会話なしで食事をするために、電子黒板で先生お勧めの映画や、トムとジェリー・ひつじのショーなどの海外アニメを流しているクラスもありました。

おかえり！体育祭



新型コロナウイルス感染症対策により、身体接触や飛沫感染の恐れがあるということで中止になっていた体育祭が、葛飾区総合スポーツ公園陸上競技場に帰ってきた。一部プログラムの変更はあったものの体育科の先生方、実行委員の皆さんの工夫やアイデアで、再びたくさんの笑顔を競技場で見ることが叶った。高校3年生の玉入れはなんだか大きな身体も可愛らしく見えてしまって、ご子息の幼いころを思い出した保護者の方もいらしたのではないだろうか。しかしこの玉入れ、じつは籠に十字のテープが貼られており、非常に難易度が高かったということを競技に参加した生徒と審判の先生しか知らない。コロナ禍で運動する機会がぐんと減ったこともあってか転倒する生徒も今までの体育祭よりも多くいたように感じたが、幸い大きなけが人は出なかった。



綱引き



放送ブース前で勝者インタビュー



800m



閉会式。実はコロナ禍以降、足立学園では中学から高校までの全クラスが集まることはほとんどない。始業式や終業式もオンラインで行うことが当たり前になった。久しぶりの全員集合ということもあり校長の提案で受験に向かう高校3年生へ、中1から高2までが三三七拍子でエールを送った。日焼けした顔の生徒たちは皆、充実感と疲労感を滲ませて帰途についた。

有志教員による中学2年生と走るリレー！
今年には体育科や運動部顧問が多かったような……？



玉入れ



ダイジェスト動画

フル開催！学園祭



オンライン開催、保護者だけの招待を経て、2日間フル開催の学園祭も帰ってきた。ただし、一般来場者は生徒から招待された方の限定とはなったが、それでも多くの方にご来場いただくことができた。久しぶりのフル開催で戸惑ったのは生徒だけではない。3年ぶりの開催はルールの変更も様々あり、先生方も頭を悩ませなんとか学園祭実行委員やクラスの企画が希望する形をとれるよう尽力してきた。クラス企画はもちろん、各文化部の実演や展示、演奏は多くの人を集めた。久しぶりの中学生の合唱も楽しむことをテーマに歌う機会を得た。小講堂ではアフリカについてやLGBTについての講演を行った。制限の多い中、楽しむことはもちろん、おもてなしもできたのではないだろうか。



一般客も参加した景品付きクイズ大会



書道部
渾身の書道パフォーマンス



理化部
初の実験公開ショー



中！楽しく歌おう



歌殿優勝者



中学2年生はオリジナルカイロを作ってクラスごとのデザインを売上で競っていた。



ダイジェスト動画



クイズ研究同好会
クイズ大会



軽音楽部ライブ



復活した飲食模擬店也大繁盛





帰ってきた&パワーアップした グローバルプログラム

オーストラリア スタディツアー

参加：中学1年～高校2年



”志”グローバル・プログラム

海外研修推進委員会
佐藤 友治

本校の海外研修は、新型コロナウイルスの影響により2年間の中止・延期が続きましたが、今年度から再開することができました。年度当初には、オーストラリア・ターム留学、オーストラリア・スタディツアー、オックスフォード大学短期留学プログラムを予定しておりました。オックスフォード大学の短期留学は、残念ながら希望者が最少催行人数に達しないため中止になりましたが、オーストラリア方面はいずれも実施できる環境が整いました。

しかしながら、7月のターム留学はオーストラリア政府による学生ビザの発給が遅れ、13名の希望者のうち、2名が遅れて参加し、4名は行先を変えてターム留学に参加しております。その他の生徒は、来年1月・7月に実施されるターム留学に参加する予定です。留学期間が短くなってしまった2人ですが、ホストファミリーにも恵まれ、現地校での充実した学校生活を終えて帰国しております。また、行先を変えてアデレードに出発した生徒たちからは、いろいろと苦労がある中で自分の力で何とかしようとしている様子が報告されています。このターム留学は、本人の主体性がその成功に大きくかかわっており、参加した生徒たちは、それを十分に理解して行動しているようです。ターム留学は、3か月弱の短い期間ですが、語学力だけでなく成長期の生徒たちの内面に大きくプラスの影響を及ぼすものであると確信しております。

一方のスタディツアーは、夏休みを利用して実施される12日間のツアーですが、内容が充実しています。現地学校ではスクールパディの協力のもと、英会話以外にもダンスや先住民に関する学習などバラエティ豊かな授業が行われます。今年度は、中学1年生から高校2年生までが参加しました。この海外研修は異文化体験の入門編として参加希望者が多いため、来年1月に第2回スタディツアーを予定しております。

また、今年度からの新たな取り組みとして「アフリカ・スタディツアー」を実施する予定です。12月17日からの9日間、アフリカ・タンザニアに渡航します。地元NGOの植林活動への参加、コーヒー農園でのエコツアー、現地学校訪問、サファリツアーなどが組み込まれています。本校ではグローバル教育を進めていく中で、先進地域以外も含めて海外研修を実施する必要があると考えています。アフリカは世界で最も貧しい地域ですが、今後の発展が最も期待される地域でもあります。アフリカの現状を実際に見て考察を深めることが、世界の多様性を理解し、グローバルな視点を身につけることにつながると思います。

海外では、国境に関係なく人々の移動・交流が盛んに行われています。本校生徒諸君も若いうちに海外を訪問して、グローバルという言葉など当たり前なこととして、世界に飛び立つことを期待しております。



7月31日～8月12日、3年ぶりに再開したオーストラリアへのスタディツアー。場所はオーストラリア東部、クイーンズランド州のブリスベン。中1～高2の生徒35人が参加し、それぞれEarnshaw(アーンショウ)、とCleveland(クリーブランド)の2校に分かれ、約2週間、現地の生活を体験しました。

Welcomeパーティーでは手作りのお菓子やケーキで出迎えていただきました。日豪の他、アボリジニの民族旗も飾られていました。

研修内容は様々です。生徒それぞれに割り当てられた「パディ」、体育の授業では現地の高校生とバレーボールで白熱の対戦、オーストラリア固有の動物に触れ合う授業など。3回あった英会話の授業では、徐々にレベルを上げ、最終的には70分間会話を楽しむまでになりました。

そのほか、オーストラリア原住民の文化・言語「ジェンダイ」を学ぶ授業では、原住民にルーツを持つCleveland校の生徒と初めてコラボレーションし、意義深い授業になりました。

また、コアラで有名なローンパイン動物園への遠足や、街中に出た際の課外授業も楽しい体験となりました。ワラビーと2,3歩の距離まで近づいて一緒に写真を撮る生徒の姿が印象的でした。

学校生活はもちろん、生徒たちはホームステイ体験を大いに楽しみました。週末は市街地に行ったり、フェリーに乗って近隣の島に日帰り旅行に行ったりと、ホストファミリーと濃密で充実した時間を過ごしました。

最終日は晴れやかな笑顔で現地校より認定証の授与を受けると共に、ホストファミリーやパディ、現地で出来た友達との別れを惜しみました。ホストファミリーや現地校の皆さん、関係者の皆様、ありがとうございました。延期が続いた関係で、今回は希望者全員行くことができませんでした。今年度は秋に再度オーストラリア・スタディツアーを実施する予定です。



学期まるごと留学期間 ターム留学 参加者インタビュー

世界に学ぶ、世界に広がる

高校2年 渋澤 匠吾さん

—こんにちは。今日はインタビューを引き受けてくれてありがとうございます。ぜひよろしくをお願いします。早速ですが、どうしてターム留学に行ってみようと思ったのですか？

渋澤君(以下、敬称略): 高校1年生の時に学校からの案内を見て興味を持ちました。あとは親戚にも勧められたので、行ってみようかなと思いました。

—なるほど、実際に行ってみた感想を教えてくださいませんか？

渋澤: 最初は心配でしたが、留学したからわかったことが多くて、終わってみると本当に参加して良かったと思いました。具体的には、今までエンジニアになりたいと思って、勉強を頑張ってきましたが、今回の留学で海外の企業に行くことも視野に入ってきました。自分の将来の選択肢を増やしてくれたと思っています。

—なるほど。ホストファミリーはどんな方たちでしたか? 食事などの生活についても教えてください。

渋澤: ホストファミリーはお父さん、お母さん、小学生の男の子と女の子のいるご家庭でした。とても優しく、滞在期間が短かったこともあったから色々なところに連れて行ってくれました。週末はバーベキューをしてくれました。イタリアから来ていた留学生のステイ先にも連れて行ってくれました。小学生の子供たちとも一緒に遊びました。どれもとても良い思い出になりました。食事はやはり日本とは違う見たことのない物や独特な味の物が多かったです。でも困ったことは特にありませんでした。バンズに好きなものを挟んで食べたりと、私が好きなものを選びやすい食事してくれることもありました。

—現地の学校での生活や日常生活においても言語の違いなどで苦労したりしませんでしたか？

渋澤: 学校ではバディ制度があり、同じ授業をとっていたり、そうでなくてもよく声をかけてくれたので、迷子になることもなく、困りませんでした。英語のコミュニケーションも最初はうまく会話できないことがありましたが、片言で話していても、相手はわかろうとしてくれましたし、相手が話すときは私が聞き取りやすいように、ゆっくり話してくれました。今はリスニングに自分なりの成長を感じています。

—他にも印象的だったことを教えてくださいませんか？

渋澤: 一番印象的だったのは海に行ったときです。海で波に飲まれたときにパニックになりかけました。家に帰ってからお父さんにオーストラリアでは波のかわし方や海の入りを授業でやったりするけれど、日本は島国のわりに教わらないようだから覚えておいた方がいいと言われました。

私は留学に行ったことで、前よりも授業で発言することに抵抗が少なくなりました。自分から話をしないと、相手には伝わらないんだ、「察する」文化というのは日本の文化なのだということを学びました。なので、ぜひいろんな人に留学に行ってみてほしいなと思いました。

—貴重なお話ありがとうございました。これからも留学で学んだことを生かして頑張ってください。



志 GLOBAL PROGRAM IN AFRICA

アフリカスタディツアー

参加: 中学3年~高校生

【スタディツアーの目的】

- ・アフリカのタンザニアを訪問し、現地の人・自然・社会に接することで、アフリカの一部であるタンザニアを通して、社会状況や経済状況・環境問題など理解を深め、自分の言葉で説明できるようになる。
- ・島国である日本を離れ、海外での異文化理解に励む。
- ・ツアー終了後は、新たな発見や気づき・学びを自らが主体的に周囲の人へ還元するとともに、身近な問題を発見し、率先して解決できるよう取り組んでいく。

【事前学習】

- ①目的の確認と課題の発表(課題図書を紹介)
- ②アフリカの国・文化・歴史・気候等について学ぶ
- ③大津さんによる講義
- ④タンザニア大使館訪問
- ⑤最終確認

【課題】

事前にアフリカについての理解を踏まえ、ツアー開始前に自らのテーマを設定する。現地訪問中に実地調査を行い、ツアー終了後にまとめる。

ツアーガイド

大津 司郎さん



フリージャーナリスト。アフリカ関係のTV報道や特集ではコーディネーターも務める。単なるサファリや秘境という括りではない、“今”のアフリカを直接伝えられる旅やプログラムを模索している。

DAY 1

20:40 成田国際空港→仁川国際空港→アジスアベバ空港(エチオピア)
時差-6時間 飛行時間16時間40分 機内泊

DAY 2

07:20 アジスアベバ空港(エチオピア)到着、乗り換え
10:15 →キリマンジャロ国際空港(タンザニア)
12:50 キリマンジャロ国際空港到着
午後 アルーシャナショナルパーク見学
モシ(タンザニア)へ移動、ホテルチェックイン

DAY 3

終日 キリマンジャロ麓の村にて地元NGOと植林活動
夕刻 マニヤラ湖国立公園にあるムトワンプレッジへ移動
キャンプ泊

DAY 4

午前 ローカルアクティビティ後、現地校訪問
午後 カラツ(タンザニア)へ移動 コーヒー農園エコツアー
夕刻 ゴロンゴロ保全地キャンプサイトへ移動しキャンプ泊

DAY 5

早朝 陸路にてゴロンゴロ保全地域のカルデラを經由しセレンゲティへ
午後 セレンゲティ国立公園(タンザニア)にてキャンプ泊

DAY 6

終日 サファリツアー
キャンプ泊

DAY 7

終日 セレゲンティからカラツへ(タンザニア内移動)
カラツでロジ泊

DAY 8

午前 カラツからキリマンジャロ国際空港へ移動
17:35 キリマンジャロ国際空港(タンザニア)
→アジスアベバ空港(エチオピア)
20:05 アジスアベバ到着後、乗り換え
23:35 アジスアベバ空港(エチオピア)→仁川国際空港→成田国際空港
時差+6時間 飛行時間15時間05分 機内泊

DAY 9

19:40 成田国際空港到着後、入国・税関手続き後解散

12月17日

いよいよ第1回参加者が出発!



1. 卒業生合格状況

国公立大学には20名(現役16名)が合格しました。最難関である旧帝大には東京大学(既卒)、北海道大学(総合型選抜)、名古屋大学に各1名合格しました。また、東京工業大学2名(内1名は公募制推薦)、東京農工大学2名、東京外国語大学(既卒)等、首都圏難関大へも多数の合格者を出しました。公募制推薦では前述の東工大に加えて、筑波大学、長崎大学にも合格者が出ました。いずれの生徒も在学中に探究活動の成果をしっかりと残しており、それが合格に結びついています。

私立大学では、早慶上理・GMARCH・医学部医学科に現役123名が合格しました。昨年よりも20名も多く合格しており、志高く努力した卒業生がすばらしい結果を出しました。大学別にみると、明治大学に25名合格し、ここ数年で最も多い数となりました。また早稲田大学の合格者は13名となり、昨年以上の成果を収めることができました。

表1は、過去7年間の卒業生数と各大学グループの現役合格者数です。国公立大は、一昨年度並みの合格者数を堅持しました。また私立大では最難関である早慶上理グループでは38名、GMARCHグループでは78名と、平成29年度に近い合格者となりました。ここ数年、定員厳格化などの影響で厳しい入試が続いていましたが、生徒達の努力が実を結び、多くの合格を出すことができました。

これらは一部のコース・生徒の活躍によるものだけではなく、各コースですばらしい結果を残しています。昨年度から「3コース制」「アラカルト授業」「課題探究、進路探究の授業」など新たな試みが導入されており、これらの取り組みが合格実績にもつながっていると考えます。

2. 本校の進学指導

本校では、生徒たちに「将来、志を達成し、社会に貢献できる人材として活躍してほしい」という願いを持っています。彼らがそれを達成するには長い年月が必要であり、大学進学はその一つの通過点です。しかしそれは大事な、重要な通過点であると捉えています。その先にある志を達成できるように「早期に目標を持つ指導」「実力を養成できる指導」を2本柱としています。

「早期に目標を持つ指導」として、高1で「キャリアデザイン講演会」を実施し、10年先、50年先の自分について具体的なイメージを持たせます。社会人OBを招いての懇談会や、マイナビによる「適学適職診断・講演会」も行います。また「夢ナビライブ」(10月・今年度オンライン開催)にも全員で参加します。これは文部科学省後援の国内最大級の進学イベントで、300以上もある講義から自分が興味・関心を持つ学問分野について受講できます。「大学で学びたいことが見つかった」「将来のやりたい職業と大学での学びが繋がった」等、生徒からも好評です。高2以降では、大学生OBによる講演会、国公立進学ガイダンス、各大学による校内説明会などを実施し、それぞれの希望進路に合った、より具体的な指導を行っています。さらに、各大学のオープンキャンパス(オンライン開催含む)への参加を強く推奨し、体験を通じて生徒の進学意識を高め、主体的に自らの進路を決定できるよう促しています。これらの経験や気づき・学びをすべてポートフォリオへ蓄積し、振り返りを行うことで、生徒たちのより大きな成長を図ります。

「実力を養成する指導」では、まずは授業を基本とし、各コースに応じた効率的なカリキュラムときめ細やかな指導で基礎学力の徹底を図ります。それに加えて夏期進学講習や高3直前ゼミ、高3国公立2次試験対策講座(すべて無料)を行い、実践力を養います。特に、高2以降の講座は科目別・レベル別に設置され、生徒が自分の実力などに応じて自由に選択することができるようにしています。昨今、総合型選抜や学校推薦型選抜を希望する生徒も多くいます。通期で論文講座や総合型選抜講座を設置しています。また、本校の生徒たちは主体的に学習に取り組む者が多く、生徒からのニーズに対しては大いに応えていく所存です。このような「主体的に学ぶ生徒の育成」に重きをおいた指導をさらに続けてまいります。

3. 学校推薦型選抜(指定校制)について
学校推薦型選抜(指定校制)については、表3のように慶應義塾大学、青山学院大学、上智大学、東京理科大学、中央大学、明治大学など約140大学350名分の推薦枠があります。高1から高3までの評定平均値や高3学力テスト、指定校推薦共通テストの結果等を踏まえて、校内選考を行います。

入試年度	卒業生数	国公立	早慶上理	GMARCH
R4年度	365	16	38	78
R3年度	239	14	30	71
R2年度	289	17	13	50
H31年度	364	11	33	58
H30年度	341	21	45	68
H29年度	317	18	40	85
H28年度	303	13	24	89

北海道大学	1(1)	青山学院大学	3(3)
茨城大学	1(1)	学習院大学	5(4)
筑波大学	1(1)	慶応義塾大学	7(6)
埼玉大学	1(1)	上智大学	4(3)
東京大学	1	中央大学	19(16)
東京外国語大学	1	東京理科大学	17(16)
東京工業大学	2(2)	法政大学	19(19)
東京農工大学	2(2)	明治大学	28(25)
名古屋大学	1(1)	立教大学	13(11)
広島大学	1(1)	早稲田大学	15(13)

大学	学部
青山学院	法
学習院	法・文・国際社会科・理
慶應義塾	理工
上智	理工
中央	総合政策・商・理工
東京理科	工・創域理工・理・先進工・経営
同志社	商
明治	経営・理工



今夏、足立学園では5年に一度の情報インフラの大規模更改を行った。教員が使用するPCや周辺機器をはじめ、普段は校内の壁に隠れて見えないハブスイッチなどのネットワーク機器、プリンターも初めてビジネスインクジェットプリンターを導入した。生徒に向けてはラーニングギャラリーのPC更改、そして一番大きく変わったのはPC教室のレイアウトと、一人一台を前提として据え置きPCを廃止したことである。給電式モニターケーブル1本で生徒端末とモニター・キーボード・マウスを繋げた。これはオフィスで働く感覚を学生のうちから肌で感じられるように、という狙いで最先端の企業と同じ環境を整えた。

PC教室のレイアウトについては日本Microsoft社(品川本社)の本来社員しか入れないオフィスを見学させていただいたり、また日本電子専門学校でのデザイン科・ゲーム科・CG科といった教室内のレイアウトなどを見学させていただき、参考にさせていただいた。様々な事例の中からアクティブラーニングと教室内を巡回しやすい現行の形を取った。生徒にも非常に好評で、人数が大幅に増えたPC部も、放課後は賑やかに活動している。

生徒にはBYAD(Bring Your Assigned Device)という形で学校の推奨機種を各ご家庭に購入いただく形をとって7年目、高校3年生の中入生(富士通 ArrowsTAB)を除いてSurfaceGoシリーズを使っている。ICT推進が始まったころ、よく「教科書・ノートと同じ感覚でタブレットPCを」と言っていたが、今や移動教室や高校のゼミでは当たり前のようにPCを携帯している姿を目にする。Microsoft365の使用もかなりスムーズになってきたと感じている。Teamsでの連絡や課題の提出は教科を問わず行われているし、出席停止の際にも授業が受けられるように、オンライン会議で授業を配信し、受講できている。Formsを使っている検温・健康観察入力も問題なく行えている。今後の課題としては、ぜひ自分のPCについてももう少しメンテナンスや環境の整理を覚えてほしいと思う。どうしてもWindowsはWindows Updateを行わないとアプリや挙動に不具合が出やすいのだが、なかなかアップデートにまで意識がいかない生徒が少なくない。また、スマホの感覚があるためか、シャットダウンや再起動をしないのでPCがリフレッシュできておらず動きが遅くなることがある。ぜひ自分の持ち物、自分の相棒という感覚をもって大切に扱ってほしいと思う。

足立学園は今年度もMicrosoft Showcase School 2022-2023の認定を頂くことができた。ICT先進校として認められたという事を示すこの認定制度、じつは単にSurface ProやSurface Goをたくさん買ったからもらえるというのではなく、Microsoft社が目指すMicrosoft Education Transformation Frameworkを利用した教育改革を深め、拡大する機会を持った学校に与えられるものである。本校の場合、志共育を行っていることにより、生徒主体で深く思考し探究していること、そしてその探究にMicrosoft社のテクノロジーを利用していることが評価されたのだろう。

7月に日本Microsoft社社長(現在は退任)が来校された。本校でMicrosoftアンバサダーとして活躍している生徒をメインに学園でのMicrosoft365の使用状況やどんなふうに使っているのか、どんな形で学びに役立っているのかをプレゼンテーションさせていただいた。また、有志の生徒に集ってもらい、直接社長や文教部門担当の本部長などに質問させていただく座談会の場を設けた。会の後、社長からの感想として、非常にICTの活用が進んでいる学校であること、そして先生はもちろん、生徒も積極的にICTを活用して学びに活かしていること。日本の学校教育が目指すGIGA構想と言われるものが、すでにこの学校で実現が始まっていることはとても意義の大きいことであるとお話いただいた。また、11月にはアンバサダーの生徒が本社を訪問し、会議と社内見学を行った。これは生徒も大いに刺激になったようで、今後も実施していくので、生徒はぜひMicrosoftアンバサダーに参加してほしい。

今後の足立学園のICTの課題としては、今のツールとして使いこなしているという状況からさらに一歩進めていきたい。それは、単にTeamsが連絡チャットツールであるというだけでなく、協働作業のハブツールとして付属のホワイトボード機能やOneNoteなどを使って表現方法を増やし、一番良いものを選択できるようになることである。多くの選択肢の中から自分にとってベストなものを選び、働き方や学び方をより良くしたい。これは今後、社会全体に求められていくスキルでもあるため、今から身に付けることは重要だと感じている。

令和7年度大学入試に「情報」が増えることが報道されて久しい。足立学園では高校3年生での選択授業に情報を加えて対応していく予定である。





足立の探究

「志共育」と「探究」の相乗効果が今

教育系のWEBサイトやコラムで「探究活動」について学校はどう取り組むか、何をすべきかが取りざたされ、各校がスタートする中、高校2年生で4期生となる本校の探究コースの「個人探究」は更に幅を広げました。個人個人が本当に取り組みたいこと、将来を見据えて学びたいことを探し、文献や実験を通して深く思考します。参考として先輩が残した論文を読めることは、足立学園探究コースの財産とも言えましょう。どのようにゼミや論文作成に取り組むのかを理解して、与えられる課題をこなすのではなく、自ら学びたいという欲求を呼び起こすようになりました。また、探究活動を通して自分が何を知りたいのか、何を学びたいのかという問いかけとなり、「自分」を知るきっかけになったという先輩もいます。「やりたいことがみつからない」「何をしたいかわからない」という若い人が多い中、学校の一つのカリキュラムがその生徒の人生の一つの道標にも繋がっているのは、足立学園が取り組む「志共育」と結びついているからに他なりません。卒業した探究コースの生徒のインタビューでも、きっかけは足立学園中学で取り組んでいる企業インターンでのとある企業が行っている事業が未来に活かさないか?といったものであったり、留学先で触れたプログラミングがきっかけで、海外でコンピュータエンジニアリングを学びたいと探究のテーマとして取り組んだ先輩の話がありました。

「課題探究」の醍醐味は「自分で研究テーマが決められる」というところに尽きます。なぜ日本の漫画やアニメが海外にうけるのか、幽霊は実在するのか、そういったテーマでも社会学・科学・経済学といった分野の書籍や論文、アンケートなどから自分なりの答えを導き出すという経験はなかなか体験できるものではありません。また、志共育の根幹である「世のため、人のために自分の人生をかけて成し遂げたい夢」を探る第一歩でもあります。

今年も時間をかけて取り組んだ探究と、その結果をまとめた論文が集まりました。その中から3つ紹介したいと思います。抜粋となるため、全文をご覧になりたい方は、ぜひ足立学園にお越しいただき、論文集をお読みいただければと思います。

ヒトはフェロモンを使えないのか

——鋤鼻器が退化した理由を考える——

武藤 直規 (2021年度足立学園高等学校 2年B組23番)

要旨

ヒトにフェロモンが存在すると考えられているが、その物質、あるいはフェロモン情報がどのように受容され、脳に作用しているかは明らかになっておらず、フェロモンを受容する器官である鋤鼻器が退化している。そこで本研究では、フェロモンを使う昆虫を用いて、それがどのように作用するのか実験をし、脊椎動物の系統樹と受容体を発現させる遺伝子である *VIR* 遺伝子と照らし合わせ、ヒトとの違いを見つけ、鋤鼻器(フェロモンを受容する機構)が退化した理由を考える。

2. 本論(方法、実験、結果)

フェロモンという物質の特徴

私は、ヒトがフェロモンを使えなくなった理由を、進化していく過程で、フェロモンに頼らなくても良いほどのコミュニケーション能力を獲得したこととの、トレードオフの結果であると考えている。本研究ではこれを説明するために、フェロモンを用いないコミュニケーションの例を考えたり、進化の系統樹と鋤鼻器を発現させる遺伝子である *VIR* 遺伝子の関係を照らし合わせることで考察をする。まず、フェロモンという物質の特徴を知るために、フェロモンを用いるオカダンゴムシを用いて、フェロモンの受容の条件や、作用の仕方を調べた。

《方法》

実験に用いるダンゴムシは、自宅の庭で採取したオカダンゴムシを用いて実験した。実験する前に、採取した場所の落ち葉で数日生育し、ある程度フンが溜まった所で実験をした。この実験では、フンに対して8種類の操作をし、オカダンゴムシに3種類の操作をして、合わせて24通りのグループに分けて実験をした。今回の実験では、ステンレスのトレー、漏斗、タッパー、濾紙、pH試験紙、コットン(綿)、ピペット、お酢、過炭酸ナトリウム水溶液、水道水、マーカー、ハサミ、オカダンゴムシ、オカダンゴムシのフンを用いて、実験した。フンとダンゴムシに以下の通りの操作をし、フンはコットンに染み込ませ、それぞれ3セットずつ作った。ダンゴムシはグループごとに10匹ずつトレーに放した。それぞれ(A)~(F)まで3種類のトレーの左下に置き、10分程度放置してから、ダンゴムシの位置を観察した。また、それぞれのトレーにダンゴムシが転倒したときのために、爪楊枝を置き、別のグループに移るときには、エタノールでトレーを拭いてから実験した。

フンは、

- (A) フンに何も操作しないグループ
- (B) フンを酢酸(食酢)に浸して酸性にしたグループ(pH=4程度)
- (C) フンを過炭酸ナトリウム水溶液に浸して塩基性にしたグループ(pH=12~13程度)
- (D) フンを濾紙で濾して、その濾液で実験したグループ
- (E) 酢酸(食酢)のみ
- (F) 過炭酸ナトリウム水溶液のみ
- (G) 水道水のみ
- (H) エタノールのみ に分け、ダンゴムシは
 - (a) 何も操作しなかったグループ
 - (b) 触覚を切り落としたグループ
 - (c) 目を塗り視覚を落としたグループ に分けた。

この実験の結果は、下の図のようになった

	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)
(a)	○	×	×	○	×	×	○	×
(b)	○	×	△	○	×	△	△	△
(c)	○	×	○	○	△	×	△	×

- : 集まった(6~10匹)
- △: 一部集まった(3~5匹)
- ×: 集まらなかった(1~2匹)

表1 さまざまな環境におけるフェロモンの誘因性の実験



地域活性化における空き家の活用方法

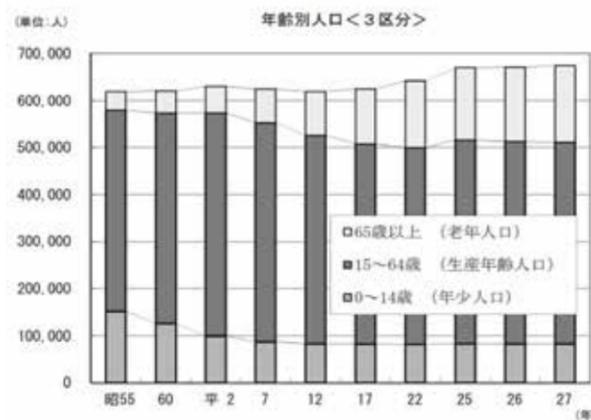
——足立区を活性化させるには？——

佐藤 蒼 (2021 年度足立学園高等学校 2 年 A 組 13 番)

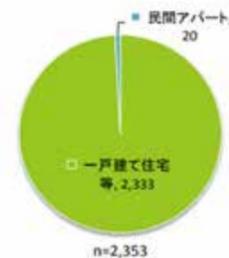
要旨

2000 年代に入り、日本では少子高齢化や地域過疎化が進み町に活気がない寂しい状況におかれています。特に、足立区においては 162,806 人 (全体の 24,2%) と 23 区のなかでも高齢者の高い割合である。そんな、高齢者の増加と切っても切れない関係にあるのが空き家問題である。実際、足立区は空き家数が 2353 棟とこれもまた 23 区で 1 位の数字である。

足立区には大学が 6 校あり 23 区でも 10 位に位置している。足立区の少子高齢化問題・空き家問題と学生街という足立区の特徴の二つを結び付け活用し活性化に向けて考えていこうと思う。



(図 1 年齢別人口)



(図 2 建物分類別空き家数)

1. 序論

～はじめに～

今現在、日本では少子高齢化や地域過疎化が進んでいる。また、それに伴い所有者の高齢化により放置された空き家問題も大きな課題になっている。

そんな 2 つの解決すべき問題を抱えているのが足立区である。そこで、私はこの問題を逆に有効活用し足立区の地域活性化に活用できないかと考えた。

そこで思い浮かんだのが空き家をリフォームし民宿に改造することと羽田空港から 40 分の距離という立地の良さを生かして外国人観光客向けのベトナムタウンとして活用することだ。

足立区には 6 つの大学 (東京電機大学・東京未来大学・帝京科学大学・東京藝術大学・文教大学・放送大学) がキャンパスを構えており地方から出てきた生徒が他の区に

比べ多い。そのようなお金に余裕がない学生に対して下宿先として貸し出すことを目標としたい。また、本校の生徒においても自習室の貸し出しを希望する生徒がおり、空き家をリノベーションし生徒に様々な用途で活用できる多目的ルームとして貸し出すことも提案したい。

今日、日本及び東京都の外国人観光客の数は年々増加しており東京都の観光客数に至っては 2019 年はラグビー W 杯などもあった影響で邦人約 5432 万人 (前年比 +1.2%) 外国人約 3188 万人 (前年比 +6.6%) と、どちらも過去最大の数字である。しかし、2020 年に入ると新型コロナウイルスの影響もあり邦人約 3371 万人 (前年比 -37.9%) 外国人約 252 万人 (前年比 -83.4%) と過去最低の数字であった。しかし、ワクチンの普及や感染数の推移をみても観光客が東京都を訪れることは、そう遠い未来ではないと考える。

VR での感覚フィードバック

——風を用いた VR 空間上でのクロスモーダル効果の検証——

丹下 真樹 (2021 年度足立学園高等学校 2 年 C 組 14 番)

要旨

本研究はヴァーチャルリアリティ空間上での触覚提示に対して発生しうるクロスモーダル現象との関係性を明らかにする事を目的としたものである。実験では被験者に映像を視聴させながら風を与え、その際に発生する心拍数の変化や体感上の感覚の変化を記録した。結果として映像から推定される風の強さと実際の風の強さが近い場合より強くクロスモーダル現象が発生していると推測できる結果となった。

1. 序論

1-2. VR における触覚

前述の様に現在様々な分野で活用と発展が目覚ましい VR だが私は一つ大きな問題を抱えているように感じた。それは触覚の不足である。現在 VR 上でフィードバック可能な五感というのは、立体視と立体音響による視覚と聴覚の二つのみである。しかし現実を完全に再現するならばそれ以外の五感的要素も必要不可欠であり、その中で最も必要であるのが触覚であると私は考える。触覚とは五感の内視覚や触覚に続き三番目の割合を占める重要な感覚である。その触覚を実装する事が出来れば大幅な現実感の向上が見込めるはずだ。実際その様に考える研究者も多く、振動や音波等といった様々な方法での触覚再現の研究が行われている。私も自分なりの方法での VR 上での触覚再現、そしてリアリティの向上を行い、今後の VR 技術の発展の一助になれば良いと思い、本研究を行う運びとなった。

2. 本論

2-1. クロスモーダル現象

私が本研究を行うにあたって初めに着目したのがクロスモーダル現象だ。クロスモーダル現象は感覚間相互作用であり、ある感覚が別の感覚に影響を及ぼす現象である。これを利用すれば実際に感じていない筈の感覚までを他の要素によって補完し、より現実感の高い VR 体験を提供する事ができるのではないかと考えた。先行研究として平尾 (2018) らによる、VR 上での映像によって持ち上げた物の重量感覚を変化させる例等がある。

2-2. 実験方法



図 2-2-1. 実験装置の写真

実験方法として、被験者に VR ヘッドマウントディスプレイ (以下 HMD と表記) を装着させた上でジェットコースターの映像を視聴させ、前方向と下方向からサーキュレーターを用いて風を送り、その際の心拍数を計測した。また風の強弱や有無を分けて複数回計測し、実験終了後被験者にどちらの方がよりリアリティがあったかを口頭で質問した。



図 2-2-2. HMD 内での映像

中学 | 学年

学年主任 橋本 洋

「じりつ（自律・自立）」—私自身、今までたくさんの生徒たちを受け持たせて頂きましたが、どの時代も伝える内容は似ています。しかし、様々なことに制限があることが当然と思える今だからこそ、強く伝え続けているものがあります。それは「じりつ」です。中学1年生には乗り物に例えて伝えます。「アクセルは自立・ブレーキは自律・ハンドルは自分の心」と。

12歳という年齢の子供たちは、自己中心的な考え方をしています。集団の一員として自分の言動を変えて、全体を優先すること等が難しく当然です。しかし、自分の判断だけで行動させたらどうなるでしょうか。当然、バラバラの判断が生じるでしょう。だからこそ、高い志のある足立学園中学1年生159人として、皆が同じ方向を向ける指針を常に提示し、日常生活に活かしています。

また、「総合学習」の時間を使って「志共育」を行っています。まず夢と志との違いを理解し、他者のために自分から行動することの大切さを考えていきます。その後、偉人の伝記を読み、偉人の志を生徒なりに導き出す作業を行い、学園祭で展示させていただきました。今後のステップとして、いよいよ生徒一人一人が、志を見つけていくことになります。自分のためだけでなく、他者のため、社会のために、自分に何ができるのかを真剣に考え始めている生徒たちの横顔には逞しさを感じています。

学校行事の目的は、クラス・学年全体がまとめること、それに向けて、失敗があってもあきらめず工夫してやり遂げることです。体育祭でのメンバー選びから当日の戦い、仲間のために大声で声援を送ることも、学園祭「みんなで歌おう」での楽曲、指揮者の決定から、皆で声を合わせ何度も練習したことも、これらの貴重な体験を通して、集団のまとまりや仲間意識はとて強くなっています。集団の中には自分個人がいることを再認識することが何より大切です。その個人が「じりつ」のアクセル、ブレーキ、ハンドルをしっかり使いこなさなければ、集団は同じ目的地にたどり着けません。生徒たちは、時には些細なことで仲間とぶつかることも、伝達方法でぶつかることも当然あります。この時に、周囲の仲間やその当事者も、同じ教えや考えに戻り、ハンドルさえしっかり固定していれば、おのずとブレーキもアクセルも使い分けられるようになってきます。

足立学園生活6年間で最も大切な1年目の最重要課題は、人間力の基礎固めです。勉強でも部活でも友達関係でも、失敗しても構いません。大切なのはそのあとの行動です。辛いことがあっても、その原因をしっかりと捉え、最後まで強い気持ちを持ってやり遂げれば、最高にかっこいい笑顔が生まれます。これから生徒たちの逞しく爽やかな笑顔がたくさん見られると思うと、学年教員全員が自然と笑顔になってしまいます。生徒の成長からとても大きな幸せを頂いています。今後の生徒たちの成長が楽しみで仕方ありません。

高校 | 学年

学年主任 馬止 久之

令和4年4月8日、入学式が挙行され探究コース102名、文理コース139名、総合コース35名の計276名が77期生として高校生活をスタートさせました。式当日は、緊張した面持ちの生徒が多かったものの、オリエンテーションや部活動紹介などを経て、徐々に仲間と打ち解け、各教室でマスク越しながらも日に日に笑顔が増えていったことを覚えています。

当初、オリエンテーション期間中に予定されていた校外授業（千葉県南房総）は、新型コロナウイルス感染症第6波の影響を受け、GW明けの5月9日・10日に延期し、PCR検査などコロナ対策を万全に行なった上で実施しました。1日目の各クラスの趣向を凝らしたレクリエーション企画、2日目の慣れない包丁づかいでジャガイモの芽をとる飯盒炊爨の生徒の様子などがとても印象に残っています。コロナ禍、限られた時間の中での準備、クラスレクリエーション企画や運営など各クラス2名・計16名の旅行委員の活躍は見事でした。校外授業終了後、「クラスの絆が深まった。」「1泊ではなく2泊が良かった。」「来年も旅行委員をやりたい。」などの感想を聞き、クラスの団結と友情をより深めただけでなく、自主性を重んじる足立学園生としての自覚を強固なものにすることができたことを実感しました。現在、各クラスの旅行委員は、海外（現段階では台湾）・北海道・沖縄の3方面に分かれ、校外学習の経験を生かして来年度実施される修学旅行の具体的な企画に取り組んでいます。

日常の学習活動の中で特筆すべきものは、やはり「探究総合」の授業です。探究コースでは、1学期前半、クラスの垣根を越えた班構成でエッグドロップを行ない、初対面の同級生とのコミュニケーションの取り方や考え方の異なる生徒とも協調する力を育みました。現在は、「自分の好きとなぜを探究する」というスローガンのもと、グループで興味のある課題を探究し、来年度の個人探究への基礎訓練を実施しています。この形式は大学のゼミに似ているので、この活動を通じてゼミ活動を体験し、自己の進路選択にも生かしてもらいたいと考えています。

文理・総合コースでは、「論理構成力の育成」を目標に、生徒主体の授業を展開しています。具体的には、新聞を用いて興味・関心のある記事を選んで要約し、その記事を選択した理由や自分の意見などをワークシートに記入します。さらに、他者からの質問を理解し、応答できる能力や説得する力などが身につくよう3~4人構成の班でグループワークを行なっています。本年度の最終目標は、2月に実施される弁論大会です。聞き手を納得させるための情報収集に基づいた論理的構成力、発表における表現力など、1年間の集大成となるはずで。

こうした授業やさまざまな学校行事を通じ、2年後にはそれぞれの「志」を抱き、力強く学園を巣立っていってくれることを学年スタッフはじめ教職員一同、願っています。

OBの活躍



今奈良 翔平
2012年3月卒業 ネットワークエンジニア

埼玉県出身。足立学園在学中は吹奏楽部に所属。芝浦工業大学工学部通信工学科を卒業後、2018年にヤフー株式会社に入社。システム統括本部サイトオペレーション本部に所属し、Yahoo!JAPANのサービスを支えるインフラ基盤のうちデータセンターの通信（ネットワーク）に関する業務に従事。

ネットワークの設計や構築、新規に導入する機材の検証や選定、機材故障時の障害対応、データセンター現地でのメンテナンス作業、ソフトウェア開発など、幅広い業務を担当している。オフィスへ入社することはほとんどなく、在宅での業務がメインとなっている。

お帰りなさい！夏のホームカミングデー



コロナ禍で2021年1月に成人を祝えなかった代が1年半後に戻ってきてくれました。保護者の方も多数ご参加いただきまして、和やかに会を行うことができました。当時の担任の先生や副担任、同窓会長はじめ役員の方々とささやかにお祝いをさせていただきました。

普段のホームカミングデー（成人を祝う会）では見られないラフな格好なことあったか、なんとなく大人の雰囲気を感じていたOBたちも、クラスに入るとすぐに「足立学園生」に戻ってしまうものですね。久しぶりに会うこともあったか話は尽きなかったようです。当日来られなかった人はスマートフォンを使ってオンラインで参加していました。

足立学園では意外と多くのOBが「近くに来たから」「営業先が近かったから」「もうすぐ結婚するのでその報告を」など、フラッと立ち寄ってくれます。85歳のOBが来校して下さったこともありました。

コロナ禍で今までのようにとはなかなかいきませんが、もしお近くまでいらっしゃる際にはお気軽にお立ち寄りください。いろいろなお話を聞かせていただければ、教職員一同いつでもお待ちしております。



大会結果

◆アメリカンフットボール部

第48回関東高校アメリカンフットボール大会

第3位

令和4年度秋季東京都大会

第2位

◆剣道部

東京都高等学校春季剣道大会兼関東大会予選

男子団体 準優勝

男子個人 第3位 久保陽

関東高等学校剣道大会 男子団体・個人 出場

東京都総合体育大会兼インターハイ予選

男子団体 第3位

男子個人 準優勝 久保佑

全国高校総合体育大会剣道競技 東京都代表 久保陽

◆高校硬式テニス部

東京都高等学校新人テニス大会

団体の部 ベスト64

令和4年度 第6支部大会

団体の部 3位

◆高校サッカー部

新人戦 2回戦

総体支部 2回戦

選手権1次 1回戦

DUO リーグ1部：5位

◆中学サッカー部

令和4年度総合体育大会兼選手権大会

第5支部予選リーグ

予選リーグ3位

令和4年度東京都中体連第5支部主催サマーカップ

ベスト4

令和4年度東京都中体連第5支部新人大会予選

ベスト16

◆高校バレーボール部

関東大会予選 2回戦

インターハイ予選 3回戦

夏季私学大会 3回戦

全日本予選 3回戦

◆高校硬式野球部

令和4年度春季東京都大会ベスト32

第104回全国高等学校野球選手権大会東東京大会

2回戦

◆中学高校柔道部

高校

令和4年全国高等学校選手権柔道大会

団体戦出場

令和4年全国高等学校総合体育大会柔道競技大会

個人戦 第3位

令和4年東京都ジュニア柔道選手権大会

個人戦出場

令和4年国民体育大会柔道競技大会

東京都代表 優勝

令和4年東京都高等学校柔道学年別大会

高校1年生の部 優勝

中学

令和4年東京都中学校柔道大会

団体戦：第3位

個人戦：50kg級 優勝

55kg級 優勝

60kg級 優勝、準優勝

関東中学校柔道大会

団体戦：第5位

個人戦：50kg級 第3位

55kg級 優勝

60kg級 優勝、準優勝

全国中学校柔道大会

個人戦：50kg級 第3位

55kg級 第3位

60kg級 優勝

東京都中学校新人柔道大会

団体戦：第3位

個人戦：50kg級 優勝、準優勝

55kg級 第3位

60kg級 準優勝

81kg級 準優勝、第3位

90kg級 優勝

90kg 超級 準優勝

◆高校ソフトテニス部

春季大会個人戦：ブロック決勝進出

春季大会団体戦：2回戦進出

新人大会：ブロック決勝進出

私学大会個人戦：ブロック決勝進出

新進大会個人戦：ブロック決勝進出

◆高校卓球部

令和3年度全国選抜大会

学校対抗の部 出場

令和4年度東京都春季大会兼関東大会予選

学校対抗の部4位

シングルの部10位

令和4年度関東大会

学校対抗の部ベスト16

シングルの部 出場

令和4年度東京都総合体育大会兼インターハイ予選

学校対抗の部4位

ダブルス2位

令和4年度全国高等学校総合体育大会ダブルスの部 出場

◆中学卓球部

令和3年度東京都区部新人大会

団体の部2位

令和4年度東京都総合体育大会

団体の部3位、シングルの部ベスト16

令和4年度関東中学校大会

団体の部5位、シングルの部ベスト16

令和4年度全国中学校大会

団体・シングルス 出場

◆中学校吹奏楽部

東京都高等学校吹奏楽連盟主催バンドフェスティバル出演

北千住マルイ主催インクルージョンフェスティバル出演

◆高校ソフトボール部

東京都春季大会1回戦敗退

東京都夏季大会ベスト8

東京都秋季大会1回戦敗退

◆高校バスケットボール部

東京都高等学校男子バスケットボール春季大会ベスト16

全国高等学校総合体育大会東京都予選ベスト16

◆中学バスケットボール部

東京都中学校バスケットボール新人大会足立区予選

準優勝

東京都中学校バスケットボール新人大会

東京都ベスト32

足立区民大会 優勝

東京都中学校バスケットボール夏季選手権大会足立区予選

優勝

東京都中学校バスケットボール夏季選手権大会

第5位

関東中学校バスケットボール大会 出場

第六支部私立大会 優勝

◆高校ハンドボール部

令和4年度関東大会予選 二回戦

令和4年度インハイ予選 二回戦

私学大会 三回戦 ベスト8

令和4年度秋季新人戦 二回戦

表彰

◆書道部・書写（授業）

第38回成田山全国競書大会

推薦・日輪賞

中2A 竹田 啓悟 書道部 坂田 瞭

中2E 前沢 希 書道部 鈴木 凌

高2G 中西優貴忠 書道部 杉田 雅人

高3D 海老原竜太 書道部 菊池 颯

高3E 高岡 翼 書道部 加藤 由康

高3F 日下部 光

第38回高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会

日本武道館奨励賞

書道部、高1A 杉田 雅人

中1B 安藤 翔平

◆吹奏楽部

第62回東京都高等学校吹奏楽コンクール予選 金賞

第62回東京都高等学校吹奏楽コンクール東日本大会

代表選考会 出場賞





アダガクアンバサダーの活躍

今年度から説明会やその準備で「アダガクアンバサダー」が活躍してくれています。彼らは足立学園の沿革や志共育、学校来場者に伝えたいことなどの講習を受け、認定された人だけがその資格を有しています。説明会での堂々たる司会や、飾らずに話す学校生活の様子などを聞いた受験生からは「説明してくれた在校生のようになりたい」と足立学園を志望校にしてくれたという感想も頂いています。派手な仕事だけでなく、資料を集めたり設営や片付けの裏方で活躍してくれる生徒もいます。



説明会ではテーマに合わせたトーク



司会もアンバサダーの生徒が仕切ります



アンバサダー認定証



今年度、アダガクアンバサダーの代表を務めさせていただいた高岡翼です。実際には約半年間ほどの活動でしたが、いつも先生たちがやっていることを私たち生徒が行わせて頂けたのはとても新鮮で楽しかったです。実際にやってみると、自分の言葉で来校者の方に学校の良さを伝えることはとても難しかったです。誤解を与えないように言葉にはかなり気を付けるようにしました。また代表として皆をまとめるのもなかなか大変でした。今後もこの活動は続くと思いますが、後輩の皆には先生方や生徒会の人たちと違った立場で、本校の代表として学校をPRしてほしいと思います。これからもぜひこの学校の良さを来校者の方に伝えてください。応援しています。

編集後記

◆今年度は久しぶりに競技場での体育祭や二日制の学園祭が行われました。感染対策などの様々な準備は大変でしたが、生徒たちと一緒に行事を作り上げることができ、嬉しかったです。行事などの生徒会活動にしても、探究活動やICTを活用した授業等の学習活動にしても、時代や世の中の状況が変わり、在り様が変わってきましたが、その時の状況に合わせて、仲間と協力し努力してくれる足立学園生の表情は変わらないなと思います。今後も時代や世の中の変化は

あると思いますが、努力を続ける足立学園生の姿をこれからも編集していきたいです。(堂添)

◆今回も多くの先生方にご協力いただきまして、なんとか発行できました足立の教育 54号。毎年、先生方がこんなことしていたのか、留学はこんな風に過ごすのかと新しい発見があり、この発見をどう伝えようかと四苦八苦しています。これさえ読めば足立学園の魅力が8割伝わる!そんな誌面作りをこれからも続けていければと思います。ご協力頂きました皆様ありがとうございました。(八重樫)

足立学園の情報はこちらをご覧ください。



<https://www.adachigakuen-jh.ed.jp/>



足立学園チャンネル



@adachigakuen_jh



adachigakuen.jh

OBの近況や活躍をぜひお知らせください!!

夢をかなえた、事業を興した、お店を持った、今こんな仕事していますなど、たくさん情報待ってます! TwitterのDM、学校HPのお問い合わせなどへご連絡ください!